

# Good job 活動報告書

## 1. Good job が活動を始めたきっかけ・目的

私たち good job は近畿大学工業高等専門学校ボランティアグループです。活動を始めたきっかけは、本校が熊野に所在していた頃の学生会のメンバーによる地域清掃でした。それからボランティアの有志を募って継続的に活動を続けていくことになったのが始まりです。本校が名張に移転してからは、名張市の社会福祉協議会やボランティア協会の方々などから依頼を受けるようになりました。

そして、私たちの学校の特徴である、地元の学生だけでなく、他府県からの学生が多いことから

- 地域の方々との交流を図り、地域の魅力を発信
- 様々な年代の方々とのコミュニケーション能力の育成
- 様々な地域の文化・歴史・習慣を活かした活動に取り組み、地域の発展に貢献
- 将来、地域の社会活動に積極的に参加する気持ちの育成
- 個人の人格形成
- 私たちの学校の存在と活動の地元の方々への周知

などを目的として、様々な方々や福祉団体からの依頼を受け活動しています。

## 2. メンバー構成

毎年、年度の初めに登録メンバーを募集します。年度途中であっても希望者は随時受け付け、その都度登録して活動しています。今年の登録メンバーは82名（2015年1月13日現在）で、ボランティアの依頼を受けると、その内容を登録メンバーに伝え、各個人の都合や希望に応じて参加メンバーを調整し、メンバーを派遣しています。私たちは継続してボランティア活動をするため、依頼を受けたときに活動できるメンバーが参加するという形で、ボランティア活動を続けています。

1年	2年	3年	4年	5年	専攻科
19人	7人	4人	26人	22人	4人

### 3. 地元の方々との協力

私たちはボランティアを通して地元の方々との交流を深めていくなかで、段々と依頼が増えてきました。

- 文化遺産に登録されている「青蓮寺」の蓮の花の植え替えを手伝わせていただけるようになりました。
- 名張市 kids サポータークラブのジュニアリーダーとしての地元小学生や中学生との関わり、ジュニアリーダーの社会人の方々との関わりも増えていきました。
- 高学年の学生が名張市内の中学校に行き、数学の受験勉強指導などの活動もしています。
- 2年前から続けてお手伝いさせて頂いている地元のお祭りでの神輿担ぎにも参加しています。これには good job だけでなく、他の部活の学生も参加して地元の方々と協力して神輿を担ぎ、お祭りを盛り上げました。この活動では地域行事の担い手となり若者不足に悩む、名張市の伝統文化の継承にも貢献できたと思います。

### 4. 前年度・今年度の主な活動実績

	主な活動実績
1月	伊賀での献血啓発活動
2月	名張での献血啓発活動
3月	デイサービス「そらまめ」のボランティア
4月	曾爾ボランティア養成研修・青蓮寺の蓮の植え替え
5月	百合小子供クラブ
6月	名張市障がい者スポーツ大会のイベントボランティア
7月	NPO法人名張市手をつなぐ育成会から「親子療育キャンプ」
8月	つつじが丘夏祭りのボランティア・小学生の宿題を一緒に手伝う企画
9月	名張市のお祭りでの神輿担ぎ
10月	街頭で赤い羽根共同募金の呼びかけ・子育て応援わくわくフェスタ
11月	名張市ジュニアリーダー養成講座
12月	やなせ宿喫茶のボランティア・赤い羽根共同募金の街頭募金活動

この中で、青蓮寺の蓮の植え替え、子育て応援わくわくフェスタ、名張市ジュニアリーダーについて、の活動について具体的に紹介します。

#### ①青蓮寺の蓮の植え替え

概要：名張市にある「多宝山地蔵院青蓮寺」（以下、青蓮寺）にある蓮を年に一回植え替えをする作業を地元の方たちと一緒に行いました。

青蓮寺は奈良時代後期、弘法大師空海によって開かれたとされています。寺名は大師が「青い蓮が咲き開く風景を見た」という言い伝えに由来し、周辺の地名になるほどに有名です。蓮は全国の様々な寺院などからいただき、

現在は 120 鉢以上あります。中には 1951 年に千葉県で発見された弥生時代の「大賀ハス」などもあり、蓮の名所として多くの観光客が訪れます。この蓮を毎年春に地元の方たちと植え替えをしています。

活動内容：蓮は大きな水瓶で育てられており、まずはその水瓶を順番に並べていきます。順番は蓮それぞれに決められていました。また、とても重いので、注意しながら並べました。次に蓮の根、蓮根を壺から取り出し、成長した蓮根を切り取り、一部をまた同じ壺の中へ植え替えます。取り出す時、蓮根が折れたりしないよう、慎重かつ真剣にしました。また、植え替えるときも番号通りに入れるよう気をつけて作業をしました。水瓶に入れた蓮は 7 月、8 月頃に綺麗な蓮の花を咲かせました。



感想・反省：年度最初のボランティアで、ボランティアに興味のある新入生も参加し、とても有意義でした。蓮の植え替えはとても大変な作業でしたが、地域の方々はとても優しく、休憩時間中にはみなさんとおしゃべりを交えながら交流もしました。このように地域の方々と交流できることは普段はなく、ボランティアはそんな貴重な経験ができる場所であると改めて感じました。ただ残念ながら、学生によって取り組みの姿勢に差が出てしまったようにも見えました。今後は学生全体の意識をより高めながら、地域に貢献できるよう努めていきたいと思います。

## ②名張市ジュニアリーダーについて

概要：私たち good job のメンバーの中には、名張市 kids サポータークラブ（以下、サポータークラブ）としてジュニアリーダーをしている学生がいます。このサポータークラブは名張市が行っている「ジュニアリーダー養成講座」を修了した中学生、高校生などが中心となって、名張市の各地の小学校やイベントで、小学生の子供たちとレクリエーションをしたり、キャンプをしたりしています。具体的な活動は以下の通りです。

### 1) わんぱく広場、百合小こどもクラブのキャンプ

前者は名張市青年会議所、後者は百合小こどもクラブが主催している、共に 1 泊 2 日のキャンプで、サポータークラブは小学生の引率、遊び相手をしています。一緒に野外炊飯をしたり、キャンプファイアなど行いました。



## 2) ジュニアリーダー養成講座

この講座はサポータークラブに必要なキャンプに関するスキル、救急救命法、レクリエーション技術を身につけるために年一回行っています。特に今年は、受講開場で同時に開催されていた「教育フォーラム in 名張 2014」のボランティアもすることができたので、受講生は多くのことを学べました。

私たちはこれらの活動を通じて

- 地域の小学生との関わりの中で学校の名前を知ってもらう
- 個人のスキルアップ
- 異世代の方々とのコミュニケーションをとること

など多くの収穫があります。



今後の改善点としては、年長者の指示を待たずに先のことを考えて自ら動けるリーダーになっていきたいです。

## ③子育て応援わくわくフェスタについて

イベントの目的

- これはみえ次世代育成応援ネットワークが主催しているイベントで、毎年県内各地の都市で行われ、今年度は伊賀で開催されました。みえ次世代育成応援ネットワークとは、子ども・子育て家庭を支えたいという気持ちを持った方々の集まりで、様々な企業や団体の支援のもとで成り立っています。私自身も子どもが好きで、少子化対策について自分なりの考えを持てればと思い、参加しました。

活動内容詳細

- 名張駅からの送迎バス（三重交通の貸し切り路線バス）で、現地まで行きました。私が参加した日は4日のみで、その日は合計で8人の高校生ボランティアが来ていました。
- 現地に到着し、担当者の諸注意を聞いた後、3つのグループに分かれて、それぞれ違う活動をしました。
- グループはローテーションで、結果的にすべての活動をしたことになりました。私がいたグループは、朝はみえ次世代育成応援ネットワークブースで風船配りをしていました。
- 昼休憩の後、着ぐるみを着て会場内を歩き回り、来場していた子供たちと写真を撮ったりしました。あまり長い間着ていられなかったので、途中休憩をはさみながら活動しました。着ぐるみのキャラクターは、伊賀鉄道のふくにん、伊賀市のにん太くん&しのぶちゃん、みえ次世代育成応援ネットワークキャラクターのみっぷるちゃんの4種類があり、全部着ました。

## 反省点・改善点

- 風船を配っているときに何人かの子供が、「あ、この前のキャンプにいた人」と私の顔を覚えてくれていて、凄く嬉しかったです。しかし、名前までは覚えられていなかったようなので、これからは子供たちとより積極的に接することができるように心がけ、名前も覚えてもらえればいいのかなと思います。

## 5. これまでの取り組みの成果・課題

本校が名張市に移転した平成 23 年度は主として名張市内の近隣の団体から依頼を受ける形での活動でした。また、メンバーもまだ少なく、主として 4 年生以上の高学年の学生に限られていました。しかし、活動を続けていくにつれ、低学年にもメンバーが増え、名張市以外の近隣市町村からも依頼を受けることが増えてきました。上記以外にも、赤い羽根共同募金の呼びかけ、赤十字血液センターや保健所から依頼された献血啓発活動（ヤングミドナサポーター）などの活動も頻繁におこなっており、私たちの活動は地元だけでなく県全体に広がっています。ですが、人数が増えてきたことで、メンバー間のボランティアへの取り組み意識にも差が出てきていることが現時点での課題です。

## 6. これからの方向性・目標

私たちは「誰もが無理のない範囲で地域貢献を行う」ことを目標としていて、依頼を受ければ応じるだけの活動でした。このスタンスはボランティアを長く続けていくうえでは必要かと思っています。ですが、メンバーの意識にかなりの温度差が生じていることも事実です。今後は、学内でもメンバーが携わってきたボランティア活動について広く紹介したり、意見交換したりする機会を持ち、学生全体のボランティアに対する意識をより高め、広めていきたいと考えています。

私たちが様々な活動を通して、たくさんの地域の方々や、異世代の方々との交流などができ、ボランティアとして出向いた先の様々な団体さんから感謝されると、ボランティア活動に参加して良かったと思え、次の活動への意欲も高まります。このようなボランティアを通しての自分の成長や意識の変化を周囲の学生に伝えていくことで、少しずつでも、ボランティアに携わる気持ちを育てていくことができるのではないかと思います。最終的には、学生自ら積極的に活動に参加して、将来自ら、災害復旧、青少年の教育支援、社会福祉、伝統文化継承、児童の育成、などの分野で社会貢献でき、様々な面で人の役に立つ事のできる人間になることを目指しています。

全国的にも言われていますが、三重県は特に少子高齢化社会が深刻な問題となっています。このような中で、私たちボランティアが地域活動の担い手となり、地域の魅力を発信することで、地域活性化を促し、人口減少に歯止めをかけることに少しでも寄与できればと考えています。